

講義名	基礎心理学		
担当教員	福田 哲也		
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 2時限	授業形態	講義
履修開始年次	1年生	単位数	2
備考			

**主題と概要**

心理学は、人の心の働きや心に関わる現象を科学的に検討する学問である。そして心理学の領域は非常に多岐にわたる。この授業では、心理学の様々な領域の中でも生理心理学、知覚心理学、認知心理学、学習心理学について概観する。それらを通して、心理学に関する基礎知識や考え方、人の心の特徴を理解する事を目的とする。

**到達目標**

脳と心の関係について説明できる。  
人の情報処理過程について説明できる。  
学習による行動変容について説明できる。

**提出課題**

各授業回では、出席確認を兼ねて、レスポンスへの回答を求める。回答内容はコメントシートであり、授業に対するコメントや質問等である。

**課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック**

レスポンスに記載された質問、当該授業回に関する要望（再度の説明や関連内容に関する説明の要望）に対しては、次回授業時に受講生全体に対して返答する。

**評価の基準**

- 授業内確認テストにより総合的に評価する。
- 授業内確認テストは中間テストと最終テストの2回実施する。
- 成績評価の対象は、授業の欠席回数が総授業回の3分の1以下の受講生のみである。授業全体で出席回数が一定に満たない場合（出席が11回未満の場合）、確認テストの成績に関わらず、「放棄」となる。

**履修にあたっての注意・助言他**

- 必要に応じて教員の説明を自分でノートや資料にメモすることが求められる。
- 心理学という学問をより理解する上では、心理学理論の受講を推奨する。
- 認定心理士の資格取得を希望する場合は、単位取得が必要な科目である。
- 公的な大会や行事、志引きなどやむを得ない事情での授業欠席は、欠席届および証明書を提出することで、欠席扱いにならない場合がある（証明書がない場合や本人の不注意、欠席事由に正当性が認められない場合などは除く）。
- 新型コロナウイルスの感染状況によっては、シラバスが変更される可能性がある。大学および担当者からの連絡を必ず確認すること。

教科書				
.使用しない。				

**プリント資料及び参考文献**

各回で資料を配布する。

- 参考文献
- 無藤 隆・森 敬昭・遠藤 由美・玉瀬 精治 (2018). 心理学 新版 有斐閣
- サトウ タツヤ・渡邊 芳之 (2019). 心理学・入門：心理学はこんなに面白い 有斐閣

**授業計画**

- オリエンテーション：心理学の歴史
- 心と脳：脳の構造
- 心と脳：脳の信号
- 感覚と知覚：感覚の仕組み
- 感覚と知覚：注意、さまざまな知覚
- 記憶：記憶の過程、短期記憶・長期記憶
- 記憶：忘却・日常生活における記憶
- 授業前半の振り返り
- 学習：学習の基本形
- 学習：様々な学習
- 言語：言語の種類
- 言語：言語の獲得
- 思考：問題解決と推論
- 思考：意思決定
- 授業後半の振り返り

**授業形態（アクティブ・ラーニング）**

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実験、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

**準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間**

- 各授業回で配布された資料を確認し、用語の意味や理論を自らが説明できるようにしておくこと（各回につき60分）
- 授業内で紹介された心理学に関する概念や現象が、自身の日常生活とどのように関わっているのかを考え、説明できるようにしておくこと（各回につき90分）
- 参考文献をはじめとした授業に関連する文献を図書館やインターネット上から自ら見つけだし、熟読すること（各回につき90分）

**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**

教養一般科目のカリキュラムポリシー  
 ・教養一般科目は、各学部学科の専門分野とは領域の異なる多様な科目を配置することで、広く、ときに深い教養を身につけて総合的な判断力や応用力を養うための科目  
 本授業の目標 - に関連することは、人が生活する上での様々な精神活動において身体のどのような部位が関わっているのか、また情報処理や行動がどのように生じるのかを理解することにつながる。これらを理解することは、自身が生きていくうえで、また他者と関わる中で発揮される判断力や応用力の土台となる。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

**実務経験の有無及び活用**

**備考**

授業ではレスポンスへの回答を用いるため、スマートフォン等にアプリを入れて持参することが必要となる。